

特攻勇士に感謝と敬意を



会報
特攻
 平成26年1月

第98号

公益財団法人 特攻隊戦没者
慰霊顕彰会

〒102-0073 東京都千代田区九段北
3-1-1靖国神社遊就館内・地階

電話 03 (5213) 4594
FAX 03 (5213) 4596

<http://www.tokkotai.or.jp>
振替口座 00140-6-59580

編集人 飯田 正 能
発行人 羽 渕 徹 也
印刷所 ヨシダ印刷株式会社

目次

特攻勇士に感謝と敬意を……………	1
謹賀新年……………	2
平成26年 年頭のご挨拶……………	3
封印された「カミカゼ」の戦果……………	4
特攻勇士の慰霊・顕彰施設①……………	7
平成26年度慰霊行事予定……………	8

謹賀新年

公益財団法人 偕行社

理事長 志摩 篤
 副理事長 塩田 章
 同 戸塚 新
 同 深山 明敏
 専務理事 白石 一郎
 事務局長 若木 利博

公益財団法人 水交會

會長 夏川 和也
 理事長 藤田 幸生
 副理事長 田内 浩
 専務理事 齋藤 隆
 事務局長 本多 宏隆

公益財団法人 大東亞戦争 全戦没者慰霊団体協議会

會長 島村 宜伸
 理事長 柚木 文夫
 専務理事 圓藤 春喜
 事務局長 岩田 司朗

つばさ会

會長 遠竹 郁夫
 副會長 杉山 弘
 同 山本 修三
 同 小田 邦博
 同 藤川 壽夫
 同 奥村佐登志
 専務理事 浦山 長人
 副専務理事 菊川 忠繼

公益財団法人 海原会

理事長 堺 周一
 副理事長 酒井 省三
 専務理事 助村 隆典
 理事 平野陽一郎
 同 徳永 三好
 同 福田 裕
 同 菅野 寛也
 同 早川 昭二
 同 保坂 俊雄
 同 佐藤 健次
 同 穴山 正
 同 安井 剛
 同 篠田 輝男

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長 杉山 蕃
 副理事長 藤田 幸生
 専務理事 衣笠 陽雄
 理事 深山 明敏
 同 白田 智子
 同 笹 幸恵
 同 小倉 利之
 同 水町 博勝
 同 伊集院雅英
 同 阿部 軍喜
 同 羽瀨 徹也
 同 菅野 寛也
 同 早川 昭二
 同 保坂 俊雄
 同 佐藤 健次
 同 穴山 正
 同 安井 剛
 同 篠田 輝男

評議員 秋山 政隆
 同 穴山 正司
 同 飯田 正能
 同 石井 光政
 同 石井 千春
 同 及川 昌彦
 同 太田 兼照
 同 大穂 園井
 同 倉形 桃代
 同 高嶋 博視
 同 中江 仁
 同 中村 家久
 同 新垣 敬輝
 同 根木 東洋
 同 早川 雅彦

平成26年 年頭のご挨拶

理事長 杉山 蕃



新年明けましておめでとうござい
ます。皆様清新の気持ちで新年を迎
えられたことと拝察申し上げます。
今年が皆様方にとりまして、良い年
になりますよう、心より祈念申し上
げます。

昨年は、我が国におきましては、
仄かな灯りが見え出した年のように
受け取っております。夏の参議院選
挙におきまして、国民は安倍首相率
いる政権を肯定し、その後も比較的
高い支持率を継続しております。こ
れにより国民は政治体制の安定とい
う安心感を享受しているように見え
ます。我々国民の目線からは、とも
すれば党利党略に走りがちな議會制
民主主義の弱点を曝け出すことな
く、国家の確かな将来を見据えた政

治が、着実に行われることを望むもの
であります。本年は更に、我が国の
勢が一歩も二歩も前進して欲しいと願
うところであります。

さて本年は、閩海軍大尉以下の敷島
隊が、特別攻撃隊としてマバラカット
から出撃、レイテ島沖に散華されてよ
り70年の節目を迎えます。そして、そ
れより10ヵ月に及んだ特別攻撃隊の勇
士に想いを馳せるとき、改めて身の引
き締まる追悼の感慨を禁じ得ません。
後に続く世代の我々は、若い盛りに、
これ以上の厳しい状況は考えられない
精神的環境の中で、敢然と自らを国の
為に奉じた人達があつたことを深く心
に銘記し、ともすれば、安易享楽の薄
い世相に流れがちなる人の弱さに歯止め
をかけ、自戒自浄の原点とすることが
何より重要でありましょう。さらに、
我が国の社会全体を見て、我々の作り
上げてきた社会が、果たして英霊の皆
様が斯く有れと望まれたものであるか
否かを判断の重要な拠り所とすること
も肝要なことでありましょう。この見
方は、今後幾久しく日本人の心の浄点
として大切にしなければならぬ事と
存ずるところであります。

昨年末、安倍総理のASEAN諸国

訪問がありました。誠に結構な事と存
じますが、中韓との関係は、相手国の
一方的な、我が国に対する中傷の構図
の中、遅々たるものがあります。我が
領土を守る毅然たる対応にも、国民の
多数の気持ちと裏腹な、戦後の自虐症
候群を引きずったような対応は、英霊
の皆様は、決して申し開きのできる有
様ではないと憂いている次第でありま
す。長く続く敗戦国症候群とも言える
状態には、そろそろ終止符を打たなけ
ればならないと考えるところでありま
す。

我が慰霊顕彰会の活動は、ここ1年
概ね順調に推移致しました。靖國神社
における特攻隊合同慰霊祭、世田谷山
観音寺における特攻平和観音年次法要
を始めとして、各地の特攻隊戦没者慰
霊行事への参加も例年通り執り行い、
若手の皆さんの参加も積極的になつて
きたことを喜んでおります。「特攻勇
士之像」の各県護国神社への奉納事業
も、関係者のご努力により、昨年10月
末、埼玉県護国神社への奉納・建立が
完了し、計13体の奉納となりました。
今年も引き続き、未奉納の護国神社へ
の奉納・建立について調整を行って
いきたいと考えております。

我々にとりましての最大の問題
は、戦友の皆様の高齢化に伴う現象
に如何に対応していくかという会勢
維持の問題と、特攻戦没者の慰霊顕
彰を、後に続く世代に如何に引き継
いでいくかということでありました。
また、世代交代とともに散逸してい
く貴重な資料を収集保管していくこ
とも重要なことと存じております。

今年の特攻隊出撃70周年の節目の
年、我が慰霊顕彰会としては、微力
を尽くしてこれらの課題に真剣に立
ち向かい、着実に成果を上げていく
必要性を痛感いたしております。こ
のためには、まだまだ努力、改革の
必要があり、関係理事の皆さんを中
心に、一層の取り組みが必要と考え
ております。皆様方のご協力とご支
援をお願い申し上げます。

年頭に当たり、改めて公益事業た
る本慰霊顕彰会の責務を噛み締める
とともに、重ねて新年を寿ぎ、皆様
方の安寧を祈念申し上げ、年頭のご
挨拶といたします。



封印された「カミカゼ」の戦果 (吉本貞昭著『世界が語る神風特別攻撃隊』第一章より)

①「第二次大戦米国海軍作戦年誌一九三九—一九四一」が明かす「カミカゼ」の戦果

戦後、米海軍が公式に発表した「第二次大戦米国海軍作戦年誌一九三九—一九四五」(出版協同社、昭和三〇年)によれば、比島方面での特攻の戦果は、沈没十六隻(護衛空母二、駆逐艦六、小艦艇四、その他四)、損傷七十隻(護衛空母十三、戦艦五、重巡三、軽巡六、駆逐艦二十二、護衛駆逐艦四、小艦艇三、その他十四)となっている。

一方、台湾・硫黄島方面の戦果は、沈没一隻(護衛空母二)、損傷九隻(正規空母四、護衛空母一、駆逐艦一、そ

の他三)となっており、沖縄方面では、沈没十五隻(駆逐艦八、小艦艇及びその他七)、損傷二〇二隻(正規空母十二、護衛空母三、戦艦九、重巡三、軽巡八、駆逐艦一一六、小艦艇及びその他五十一)となっている。

以上から、全期間中の戦果は、沈没三十二隻(護衛空母三、駆逐艦十四、小艦艇及びその他十五)、損傷二七八隻(正規空母十六、軽空母三、護衛空母十七、戦艦十四、重巡六、軽巡八、駆逐艦一四三、小艦艇及びその他七十一)となる。

これらを特攻兵器別に見ると、沈没二十六隻(護衛空母三、駆逐艦十二、その他十一)、損傷二六六隻(空母十六、軽空母三、護衛空母十七、戦艦十四、重巡六、軽巡八、駆逐艦一三八、その他六十七)が一般の特攻機によるもので、桜花によるものは、沈没が合計一隻(駆逐艦一)、損傷五隻(駆逐艦四、その他二)となっている。

また震洋は沈没一隻(その他一)、損傷一隻(駆逐艦一)で、回天は沈没一隻(駆逐艦二)、損傷三隻(その他三)となっている。

これだけの戦果を上げるために、我が帝国陸海軍が次のような犠牲を払っていることを忘れてはならないだろう。「特別攻撃隊全史」(財団法人特攻

隊戦没者慰霊平和祈念協会(注・現公益財団法人特攻隊戦没者慰霊顕彰会)、平成二十年八月)によれば、昭和十九年十月二十日から昭和二十年八月十五日にかけて、約十ヶ月間にわたって出撃した陸海軍の特攻機は、合計三四六一機(陸軍機一〇九四機、海軍機二二六七機)で、特攻戦死者、合計四三七九名(陸軍一八四四名、海軍二五三五名)となっている。

また、回天特別攻撃隊の戦死者は合計八九名となっており、震洋特別攻撃隊の戦死者は合計一〇八五名で、陸軍の海上挺進戦隊の戦死者は合計二六五名であった。

②米国戦略爆撃調査団の報告書が明かす「カミカゼ」の戦果

これらの沈没・損傷統計に基づいて、米国戦略爆撃調査団の報告書では、特攻作戦について、次のような評価を与えている。

「日本人によって開発された唯一の、最も効果的な兵器(ザ・シングル・モスト・エフェクティブ・エア・ウエポン)は自殺機(スーサイド・プレーン)で、戦争末期の数ヶ月間に、日本陸軍と日本海軍の航空隊が連合軍艦船に対して広範に使用した」

レイテ湾であいついで沈むアメリカの戦艦、航空母艦、輸送船の報道が、日本軍と日本国民の士気を大いに高めたことに疑いはない。当時、彼らの両方もが、何か士気を高めるものが必要であった」

「フイリピン作戦での自殺攻撃による合計六五〇機の損失は、(著者注：原著の「表U」(一八〇ページ)をみれば、きわめて大きな成果をあげたことが、明白である。これらの攻撃が主目的とした連合軍の上陸阻止は失敗であったが、命中と至近命中(ニア・ミス)は二六・八パーセントにたっしている。日本側は、このような成果をあまり知らなかった。

公式には一〇〇パーセント命中を宣言したものの、当時の日本側の非公式な推定は、二機のうち一機命中、あるいは六機のうち一機でいどというものだった。実際には、約三・五機あたり一機の命中、あるいは至近命中が得られていた」

「自殺攻撃があるていどの成功をおさめつつある一方、陸海両空軍の主力は、オーソドックスな爆撃機および戦闘機による作戦を続行した。自殺機による損失機数は、戦闘による喪失機の合計のわずか一四パーセントにすぎなかった。これが琉球作戦の後半になる

と、六三パーセントに増大した」

「沖繩上陸の第一日目は、連合軍にとつては驚くほどうまくいった。地上での抵抗はネグリジブル（とるに足りないもの）で、空には日本機の姿がなかった。そして四月六日と七日にかけて、カミカゼが三六時間にわたって猛威をふるった。

約三五五機の自殺攻撃機と、ほぼ同数の戦闘機と偵察機、総計約七〇〇機が出撃した。それは日本空軍最大攻撃のひとつであった。

日本海軍機は、連合軍の軍艦攻撃に全力をそそぐように命令されていた。陸軍機は輸送船、補給船にたいする大規模な計画された自殺攻撃の最初のものであった」

「一九四五年三月から六月にかけての琉球作戦中、自殺攻撃によって連合軍艦船二五隻が撃沈された。日本機のスコアは命中一八二機、至近命中九七機であった。

〔表U〕は、フィリピンおよび沖縄の作戦での連合軍側の損失と、日本空軍の自殺攻撃の合計を比較したグラフである。琉球での損失の方が大きい、フィリピンでの命中と至近命中の率が高いことが分かる」

「日本が海上艦船にたいする使用に考案したもっとも効果的な兵器が、自

殺兵器であった。四四ヵ月つづいた戦

争のわずか一〇ヵ月間に、アメリカ軍艦損傷艦艇数の四八・一パーセントが、そして沈没艦艇数の二一・三パーセントが、自殺機による戦果であった。

しかし、自殺攻撃はたかくついた。自殺戦術を実施した二〇ヵ月間に、陸海両軍は二五五〇機を犠牲にして、連合軍艦船の各種タイプに四七四機を命中させた。有効率は一八・六パーセントだった」

「これらの自殺機の使用により、上陸作戦の連合軍艦船が、連合国空軍が計画した多様な効果的対策にもかかわらず、大きな損傷をうけたであろうことに疑問の余地はない」

以上が、米海軍が公式に発表した報告内容であるが、被害を少なく報告しているにもかかわらず、それでも、かなりな被害を受けていることが分かるだろう。

では、これに対して実際の被害状況は、どのようなものだったのだろうか。まず原勝洋氏の調べた米海軍の秘密文書から見よう。

③米海軍極秘文書が明かす「カミカゼ」の戦果

原氏によれば（原勝洋氏調査「米海軍極秘文書」）、〔米国ワシントンDC

郊外、メリーランド州カレッジ・パークにある米国立公文書館IIには、太平洋戦争時代の極秘文書が秘密解除されて所蔵されている。これらの文書は、指定された手続をとると、誰でも閲覧することができる。

米海軍情報部航空課報課が作成した「日本機による連合国艦船にたいする体当たり攻撃」は、戦時中に日本側が知ることのできなかった、航空特攻・体当たり攻撃の命中効果を数値で示していた。

航空特攻の日本側記録による命中率、すなわち、その効果数値は文献によりさまざまである。戦後、一般に伝えられた特攻の戦果は、海軍特攻実施機数が、猪口力平・中島正共著『神風特別攻撃隊』の別表より算出した確実なものに、攻撃機の未帰還機数、陸軍は別表の陸軍特攻機を累計し、その体当たり命中機数は確実なるもののみ、その他は至近自爆機として算出した数値が、航空特攻効果とされていた。

その特攻攻撃奏功率は、比島及び硫黄島では、特攻実施機数は海軍三一五機、陸軍二五三機、体当たり命中機数一一一機、至近弾となった機数四三機、奏功率（被害艦艇一二九隻）

二七・一％（他に二六・八％の数値あり）。

沖繩作戦では、特攻実施機数は、海軍九八三機、陸軍九三二機、命中機数一三三機、至近弾一二三機、奏功率（被害艦艇二二九隻）一三・四％（他に一四・七％の数値あり）。

全特攻作戦では、海軍一二九八機、陸軍一一八五機、命中機数二四四機、至近弾一六六機、奏功率（被害艦船三八五隻）二六・五％（他に二一・三％の数値あり）と判定していた。（中略）

秘密解除された米海軍機密文書は、一九四四年十月から翌年三月までの五ヵ月間の記録で、体当たり攻撃三五六回、特攻命中一四〇機、命中率三九％、特攻機至近の自爆による被害五九機、至近自爆機被害率一七％、合計特攻効果率五六％、命中艦船一三〇隻、沈没艦船二〇隻という大戦果をもたらしていたことを暴露している。

米海軍対空戦闘報告書から得た記録によると、一九四五年四月中の戦闘報告電報からの記録集計は、さらに日本軍の航空特攻効果が拡大したことを示していた。

一七三機による体当たり攻撃が報告され、そのうちの二〇六機（六一％）が命中を記録、一七機（一〇％）は至近内自爆で被害を与えていたことが明らかにされたのである。艦船八七隻が特攻機の命中を受け、そのうち五隻が

沈没している。

これらの記録は、その後に報告された特攻戦果により、さらに命中と至近自爆成功の数値は向上しており、改訂版に記載する対象とされていた。

かくて四月の対空戦闘記録は、十分な調査ではあるが、特攻攻撃六四機（そのうち桜花二機）、命中二五機（三九%）、至近自爆被害一二機（一九%）で、艦船一九隻が特攻機の命中を受け、五隻が沈没したことを追加していた。桜花二機の体当たり攻撃は命中と判定されていた。

対空戦闘報告（一九四五年四月）から集計されたデータ数値によると、対空砲火にとらえられた特攻機の割合が、一九四四年十月の八・五%から、同年十月と一九四五年一月には三〇%に増加したことを示している。

一九四五年二月～四月の期間に報告され検討された特攻戦果の比較表によると、通常攻撃ではなく、航空特攻（体当たり攻撃）によって命中された戦闘のうち、駆逐艦の占める割合が著しく増加していることを明らかにしている。この増加の要因を分析するには、攻撃時刻の戦術的状況に関する追加情報が必要となるであろう。

考えられる一つの要因は、特攻任務について出撃するパイロットに、攻撃

目標の指示がなされていたからではないか。その結果、ピケット駆逐艦が攻撃目標としてねらわれたのである。一方、究極の戦術的目標を得るため、特に駆逐艦を攻撃目標にしたことを示しているかもしれない。

以上が原氏の調べた米海軍情報部航空課報作成の極秘文書の内容である。

だが、この極秘文書はあくまでも、昭和十九年十月から翌年四月までの特攻の記録であって、五月以降の記録がないことは残念である。

④「カミカゼ」の戦果は本当に少なかったのか

原氏も指摘しているように、ここで留意しなければならない点が三つある。

一つは、秘密解除された米海軍機密文書の内容と米国防略爆撃調査団の報告書と比較すると、明らかに前者の戦果の方が後者よりも高いという事実である。

言い換えれば、米国防略爆撃調査団の報告書は、明らかに有効率と撃沈率を低く抑えていることが分かるのである。

一方、前出のデニス・ウォーナー氏も、その著書で次のように米海軍の記録には記載されていないものがあると

同時に、被害状況は米艦船だけで、他の連合国（英国、オーストラリア、オランダ）の被害状況については言及されていないと述べている。

「沈没損害艦艇について正確な計算をすることはできない。最後の審判者となるべき米海軍戦史課で作成された『第二次大戦米国防軍作戦年誌』では、例えば慶良間列島で沈没した「ローガン・ビクトリー」と「ホップス・ビクトリー」、あるいはレイテ湾で撃沈された歩兵揚陸艇一〇六五号に關しては全く言及されていない。オーストラリア軍やイギリスの損害について言及されていないことはいうまでもない。

作戦年誌はまた、損傷後友軍の大砲や魚雷で撃沈しなければならなかったり、修理不能の大損害であることが判明した艦艇もまた、損傷艦艇と記録されている。

だが、筆者が慎重にチェックし、さらに再チェックした結果、航空特攻の結果、少なくとも五十七隻の艦船が撃沈され、一〇八隻が連合軍の戦争努力のなかから失われたように思われる。

さらに八十三隻が船体に重大な損傷を受けるか、多数の死傷者を出すか、それとも物的・人的の両面で大損害を受けた。そして、さらに少なくとも二

〇六隻が軽傷を負った。

彼の著書『ドキュメント神風』下巻（時事通信社、昭和五十七年）と『写真集カミカゼ 陸・海軍特別攻撃隊』全二巻（KKベストセラーズ、一九九七年）に掲載された「特別攻撃戦果一覧表」、そして先述した『第二次大戦米国防軍作戦年誌一九三九—一九四五』（出版協同社、昭和三十年）を照合すると、確かに、一覧表の中には、作戦年誌に掲載されていない戦果が書かれている。

その戦果の内訳を見ると、沈没が二十三隻（歩兵揚陸艇LCI一隻、貨物船二隻、駆逐艦三隻、中型揚陸艦LSM八隻、戦車揚陸艇一隻、戦車揚陸艦LST一隻、上陸支援艇一隻）となり、損傷は七十八隻（歩兵揚陸艇LCI三隻、貨物船七隻、商船十四隻、駆逐艦十五隻、中型揚陸艦LSM四隻、戦車揚陸艇一隻、戦車揚陸艦LST五隻、掃海艇四隻、輸送船二隻、兵員揚陸艦一隻、空母一隻、戦艦二隻、輸送駆逐艦二隻、敷設艦二隻、揚陸戦用資材輸送艦歩兵揚陸艦一隻、護衛駆逐艦三隻、大型上陸支援艇六隻、上陸支援艇三隻、給油艦一隻）となっている。これらを特攻兵器別に見ると、沈没二十三隻のうち一隻が「回天」あるいは特攻機によるもので、残りは全て特

攻機によるものである。また損傷七十八隻も、全て特攻機によるものである。

またデニス・ウォーナーの指摘した他の連合国(英国、オーストラリア、オランダ)の被害状況を見ると、英国の損傷は十七隻(戦艦一隻、空母十五隻、掃海艇一隻)に上っており、オーストラリアの損傷は十六隻(重巡十五隻、駆逐艦一隻)となっている。またオランダの損傷は一隻(商船一隻)となっているが、沈没は皆無である。

前出の角田氏は、昭和二十年五月四日に攻撃した第十七大義隊が英国の「正規空母四隻のうち、三隻に命中、このときは五百キロの爆弾をもっていったので、被害は、フランクリンに二百五十キロをもった三機が命中した時よりも大きく、大火災をおこした。二艦の上甲板では、さかんに誘爆を起こしていた。にもかかわらず、敵側発表は、フォーミダブルに一機命中、インドミダブルに一機至近となっている」と述べているが、未発表の資料によれば、その日、特攻機がフォーミダブルに一機命中、インドミダブルには二機命中したことになっているため、角田氏が指摘したように敵側の公式発表には誤りがあることは確かである。

(以下略)

特攻勇士の慰霊・顕彰施設①



靖國神社遊就館



知覧 特攻平和観音堂



知覧 特攻平和会館



回天碑 (山口県周南市大津島)



回天記念館

平成26年度慰霊行事予定(当顕彰会主催及び他団体主催慰霊祭参加予定)

(慰霊行事名)	(日時・場所)	(主催者名等)	(慰霊行事名)	(日時・場所)	(主催者名等)
①第36回特攻隊合同慰霊祭	26・3・30(日) 靖國神社	(公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会	⑮義烈空挺隊慰霊祭	26・6	健軍・義烈空挺隊慰霊碑前
②宮崎特攻基地慰霊祭	26・4・3(木) 靖國神社	豫科練雄飛会	⑯大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭	26・7・5(土) 靖國神社	(公財) 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
③豫科練雄飛会戦没者靖國神社慰霊祭	26・4・4(金) 靖國神社	豫科練雄飛会	⑰第63回特攻平和観音年次法要	26・9・23(火) 特攻観音堂	世田谷山観音寺(公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
④旧海軍鹿屋航空基地特攻隊戦没者追悼式	26・4・5(土) 小塚丘公園内慰霊塔前	鹿屋市	⑱明野忠魂塔慰霊祭	26・9	明野忠魂塔前
⑤第38回都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭	26・4・6(日) 都島公園内慰霊碑前	都城市特別攻撃隊奉賛会	⑲旧海軍航空隊申良基地出撃戦没者追悼式	26・10・15(水) 申良平和公園慰霊塔前	伊勢市明野・陸自航空学校内・明野忠魂塔顕彰会
⑥第46回徳之島慰霊祭(戦艦大和を旗艦とする第二艦隊戦没者)	26・4・7(月) 犬多布岬・慰霊塔前	鹿児島県伊仙町慰霊祭実行委員会	⑳靖國神社秋季例大祭(当日祭)	26・10・18(土) 靖國神社	靖國神社
⑦第54回出水市特攻隊慰霊祭	26・4・16(水) 特攻碑公園慰霊碑前	鹿児島県出水市特攻慰霊碑顕彰会	㉑日比合同神風特攻隊慰霊祭(世界平和祈念式典)	26・10・25(土) クラークフィールド・リリーヒル・平和観音像前	ファイリピン・マバラカット市
⑧第43回萬世特攻慰霊碑慰霊祭	26・4・20(日) 萬世特攻慰霊碑前	南さつま市・万世特攻慰霊碑奉賛会	㉒大阪護國神社特攻勇士之像慰霊祭	26・10・26(日) 大阪護國神社	大阪特攻勇士之像慰霊顕彰会
⑨靖國神社春季例大祭(当日祭)	26・4・22(火) 靖國神社	靖國神社	㉓埼玉県護國神社特攻勇士之像慰霊祭	26・10・31(金) 埼玉県護國神社	埼玉特攻勇士之像慰霊顕彰会
⑩京都靈山護國神社特攻勇士之像慰霊祭	26・4・29(月) 京都靈山護國神社	京都・特攻勇士之像慰霊顕彰会	㉔第48回若潮会慰霊祭	26・11・9(日) 靖國神社	若潮会(陸軍船舶隊)
⑪第60回知寛特攻基地戦没者慰霊祭	26・5・3(土) 知寛特攻平和観音堂前	南九州市・知寛特攻慰霊顕彰会	㉕回天烈士並びに回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式	26・11・9(日) 大津島・回天慰霊碑前	山口県周南市大津島回天顕彰会
⑫三島村特攻平和祈年祭	26・5・11(日) 黒島平和公園	鹿児島県・黒島三島村			
⑬第48回特攻殉国の碑慰霊祭	26・5・11(日) 特攻殉国の碑前	長崎県・川棚町新谷郷・殉国の碑保存会			
⑭海原会慰霊祭	26・5・25(日) 豫科練之碑前	旧土浦海軍航空隊(陸自武器学校)内			